

雨の強さ、降り方と災害の危険性など

1時間の雨量と予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	災害の危険性
10~20mm未満 やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。地面一面に水たまりができる。	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20~30mm未満 強い雨	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。車の場合、ワイパーを早くしても見づらい。	側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。小規模のけずれのおそれがある。
30~50mm未満 激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	道路が川のようになる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。
50~80mm未満 非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴ-ゴ-と降り続く)	傘はまったく役に立たなくなる。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	土石流が起りやすい。多く災害が発生する。
80mm以上 猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。		雨による大規模な災害の発生のおそれが強く、厳重な警戒が必要。

避難情報の種類

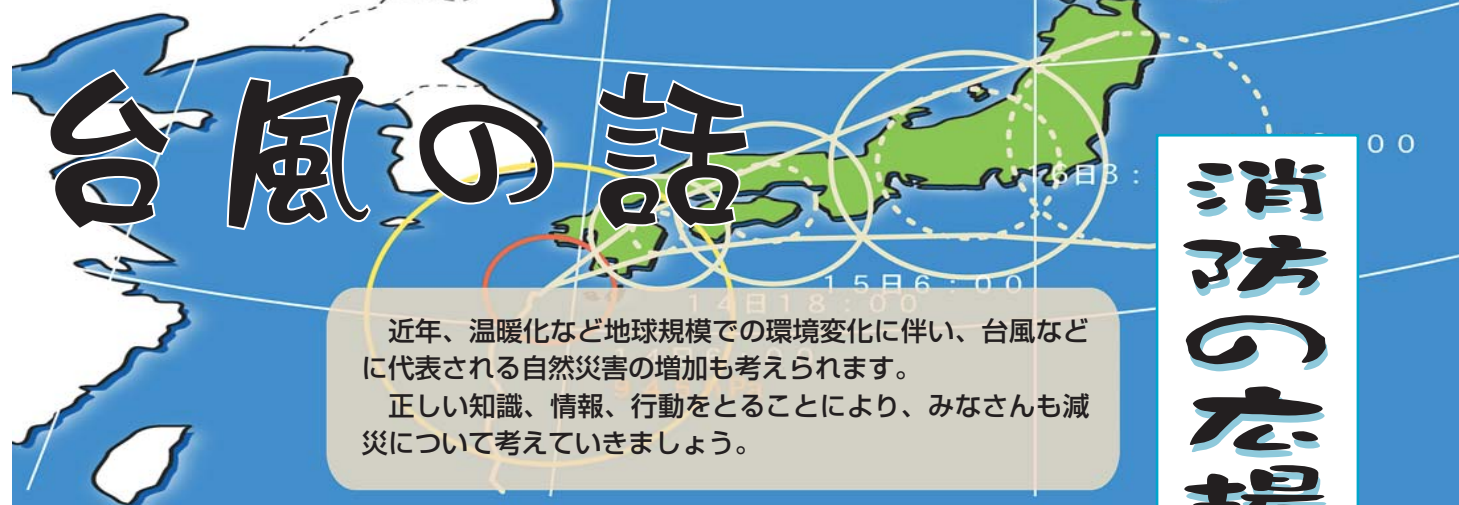
災害の危険性が高まると京丹後市から避難情報を発表します。避難情報は、気象情報や、京都府からの河川、土砂災害に関する情報、パトロールによる報告などから総合的に判断して、自主避難、避難勧告、避難指示をお知らせします。

自主避難：避難の準備を始めましょう
(特に高齢のかたや、体が不自由なかたは自主的に避難を始めてください)
ではありませんが、特に危険な状況には、自主避難を始めましょう

避難指示：直ちに避難してください
(勧告と違い、避難を指示するものです)
危険箇所付近のかたは避難所へ避難しましょう

避難経路に危険が伴う場合は、一時的に近くの安全な場所へ
大雨の際には水路の増水などにより、道路との区別がつかなくなるなど、避難所までの経路に危険が生じることも想定されます。そのような場合には、

この情報を防災行政無線などでお知らせしますので、十分ご注意ください。



近年、温暖化など地球規模での環境変化に伴い、台風などに代表される自然災害の増加も考えられます。正しい知識、情報、行動をとることにより、みなさんも減災について考えていきましょう。

消防の広場
たんごの風41号
119
火災・救急・救助

代表 62-0119
総務課 62-8119
総務係 62-8129
管理係 62-8119
予防課 62-5119

台風による災害

台風は、暖かい海面から供給される水蒸気をもとに発生、発達していくもので、大きな空気の渦巻きとなり、中心に向かうほど強い風が反時計回りに吹いています。

また、積乱雲が集まったものであるため、雨を広い範囲に長時間降らせることとなります。このように強風と大雨が台風の大きな特徴といえます。

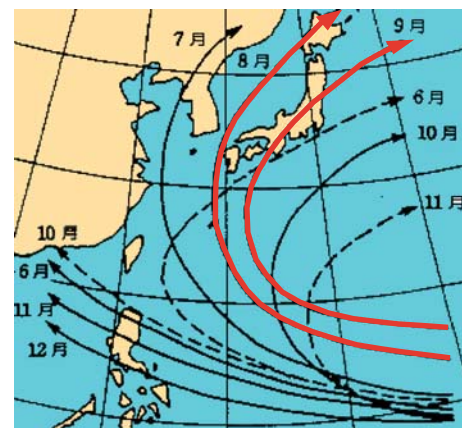
台風によって引き起こされる災害には、風害、水害、高潮害、波浪害などがあります。もちろんこれらは単独で発生するだけではなく、複合して発生して大きな被害となることもあります。

しかし、台風は地震などとは違い天気予報などで事前に予想することができます。それでも大きな被害が絶えません。その被害を最小限に食い止めるためには、まず、台風情報を十分把握し、経路、強さ、大きさなど知っておく必要があります。

台風とは

最も多く日本に上陸、接近するのは八、九月です。特に九月の台風は、秋雨前線の活動を活発にし、大雨をもたらすことがあります。過去に日本に大きな災害をもたらした室戸台風、伊勢湾台風など多くは九月の台風です。勢力を示す目安として、風速(十分間平均)をもとに強さ、大きさを表現します。強さは「強い」「非常に強い」「猛烈な」の三段階に分けられます。

経路・強さ・大きさ



台風の月別の主な経路

台風第23号

京丹後市でも過去にはさまざまな



平成16年台風第23号での被害

台風被害が発生してきました。その中でも記憶に新しいのは平成十六年の台風です。

■平成十六年十月台風第23号
・人的被害：死者三人、重症者三人、軽症者十四人
・家屋など被害(損壊、浸水含め)
・孤立集落：二地区(弥栄町味土野、久美浜町本三原)
・京丹後市内最大観測(弥栄町小田)総雨量二三四ミリ(一日間)

このように台風や豪雨によって短時間で集中的に雨が降り、河川の増水や土砂崩れなどで尊い命が失われています。これらを防ぐためには、日ごろからの危険箇所の把握、避難情報への関心、避難経路の確認などが必要です。

防災マップで減災を

ご自宅の二階や近くの安全な場所に一時的に退避していただき、避難経路の安全が確認されてから避難所へ避難していただきますようお願いいたします。

京丹後市では、平成十七年に防災マップ、ハザードマップを作成し、全戸配布しました。このハザードマップには避難場所や危険箇所の掲載だけでなく、災害に対するさまざまな知識や対処法などがわかりやすく掲載されています。

これらをもとに災害に対して事前の備えを行うことで、被害を軽くする(＝減災)ことができます。雨の降り方や浸水の状況に十分注意し、早めの避難を心掛けましょう。

助け合い(愛)の心で

台風は天気予報などで事前に接近を知ることができます。危険と思われる情報があった場合、早め早めに避難することが命を守るための基本です。

また、高齢者のかたや小さなお子さん、体の不自由なかたなどはさらに早めの避難が必要です。自分や家族だけの力では限界があるので、周囲の人への声掛けや、隣近所で助け合うことが大切です。

救急メモ

食中毒について

わが国では例年三〜四万人前後の食中毒患者が発生し、月別では七月〜十月にかけて食中毒が多発しています。しかし、最近では、暖房機器の普及、輸入食品の増加など、一年を通して発生しやすい状況にあります。

食中毒では腹痛、下痢、嘔吐、発熱、血便などが主な症状です。子どもと大人は同じ症状ですが、子どもの方が強く出る傾向があると言われ、



救急救命士 浅田 智成

特に、意識が遠くなる、下痢便に血液が混入する、嘔吐が持続するなど、の重症例では、早急に医療機関での治療が必要になります。

対策として、脱水時には水やお茶、スポーツ飲料水など水分の補給を、嘔吐時には吐きやすいよう横向きに寝かせます。

食中毒の予防として「菌を付着させない・量を増やさない・殺菌する」ことが欠かせません。そのため「手洗い・食品をよく洗う・十分に加熱する」ことを習慣付けることで、食中毒を予防しましょう。